



美味しいソフトクリームを求めて

会員 望月 健 (60期)

1 ドライブとソフトクリーム

私は、車を運転することが好きで、家族や友人達と長距離ドライブを楽しむのが私にとって最高の週末リフレッシュとなっている。今回は、長距離ドライブの休憩がてらについ食べてしまうソフトクリームについて書いてみたいと思う。サービスエリアや道の駅では必ずと言っていいほどソフトクリームが売られているのを見ると、古今東西のドライバーやライダー達からの根強いニーズがあることが窺えるが、私もご多分にもれず、ソフトクリームののぼりを見るとお店に吸い寄せられてしまう。そして、ソフトクリームをたいらげると、ドライブの疲れが消え去り、「まだいくらでも走れるぞ」という気分になる。実際には、血糖値が乱高下して、その後の眠気を呼んでいる可能性はあるが。

2 定番ソフト

バニラやストロベリーといった、いわゆる定番の風味のソフトクリームの中で、私が一番好きなのは、道の駅ビーナスライン蓼科湖（長野県）にある「蓼科アイス」というお店で売られているものである。どの味を選んでも濃厚な牛乳の風味に調和のとれたバニラやいちごの自然な香り、そしてわずかに残された氷の歯触りを楽しめる。今回、この原稿を書く際にここで食べたソフトクリームの写真を探したところ1枚も見つからなかったのだが、それはこのお店に行くと必ず2つのソフトクリームを買うため両手が塞がって写真を撮ることができなかったのがその理由であった。

3 ご当地ソフト

皆さんも旅行先で目にすることがあるかと思うが、わざわざ、黒ゴマ、ラベンダー、サツマイモ、さとうきび等、各地の特産品を使ったいわゆるご当地ソフトと呼ばれるものがある。ご当地ソフトの場合、食べる前にどんな

味なのかを想像するのも楽しみの1つだが、良くも悪くもその想像は裏切られることが多い。良い意味で想像を裏切ったご当地ソフトとして、道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠（北海道）の熊笹ソフトクリームを挙げたい。クマザサは、その見た目や菓草として使われていることから苦そうなイメージしかなかったのに、抹茶ソフトを苦くしたようなものを想像していた。実際には、苦いというよりもさわやかと言う表現がふさわしく、食べ終わった後もさっぱり感が印象的だった。その後味の良さから甘いものを食べたという背徳感が無いのだが、それはクマザサが身体に良いというたい文句によるただのプラセボ効果かもしれない。

4 ネタ系ソフト

最後に、ネタ系ないし映えるソフトクリームとして、鴨谷珈琲店（秋田県）のロングソフトクリームに触れたい。なんでも店員さんが練習を重ねて、その長さは40cmで日本一とのこと。ネタ系などと呼んでしまったが、



味は牛乳とバニラの味わいをしっかりと楽しめる正統派で、最後まで美味しく食べる事ができた。一点困ったのは、大量のソフトクリームに体温を奪われたのか食べ終わった後はしばらく寒くて仕方なくなり、冬でもないのに車内の暖房を全開にしなければならなくなったことである。ただ、残念なことはこちらのお店は閉店してしまったようなので、次なる日本一を目指すお店が出てくることを楽しみにしている。